

グループホームかもめの家

症 例 概 要 90代 要介護4

アルツハイマー型認知症

グループホームかもめの家 3階フロア （入居2023年4月～）

2024年9月より食事摂取量が低下。それに伴い体重・体力も低下され、皮膚トラブルも増加し、ベッド上での時間が増えてしまう。唯一の身寄りである長女さんも体調を崩され入院される事もあったが、多職種及び長女さんと連携を図りながら、食事摂取量の増加、皮膚トラブルも改善した。長女さんがアートギャラリーで開催した展示会へもお連れでき、輝きの一瞬をともにされた症例。

内 容

9月上旬より食事量が低下され1～3割程度で「お腹がいっぱい」「もう食べられない」と仰り、体重は5か月で6.7kg減少。食事量低下と共に体力、気力の低下が顕著となってしまいます。離床することが難しくなり、ベッド上での時間が長くなっていきました。それが起因し、左脛や左右大転子、背部右に皮むけが発生。

キーパーソンである長女さんは2日に1度は面会にお見えになって下さっていましたが、「どうしちゃったんですかね。もう歳ってということなんですかね。」と心配を募らせておられました。

皮膚トラブルに関しては、体位交換の時間変更やポジショニングをOT・医療連携看護と再検討し、介護職のケアに対する意識を改める為、介護不良点の洗い出しを行って参りました。約半年間かかりましたが、発生部位は完治し再発することなく経過しています。

食事に関しては改めてご本人の嗜好を長女さんに確認させて頂き、ご本人と長女さんにお気持ちを確認。ご本人は「何でも食べるよ。」とご希望、長女さんは「嗜好も大切にしたいけど、食事が偏るのは避けたい。」と希望される。

まず、飲物に関してお茶類は好まれない為、水分と栄養、嗜好の観点から野菜ジュースとヤクルト、カルピスを中心に提供。お食事は基本今までと変更なく提供し、食事が進まない場合は補食としてご本人が好きな甘みのあるブロックタイプのカロリーメイト等を提供。

また、管理栄養士のアドバイスの元、味の変化がなくバランス良く栄養補給を行えるプロテインを模索し、

「明治メイプロテイン」を選択。試行錯誤を繰り返しましたが、体重と食事摂取量に大きな変化は残念ながら見受けられませんでした。

そこで再度、長女さんへご相談し、ご本人の嗜好である甘味類（あんこ等）をお食事に併せて提供させて頂く事にします。そこから徐々に食事摂取量が増え始め、約2ヵ月後には体重も1.8kg増と、回復して参りました。食事摂取量が安定してからは補食や甘味類の提供を控えるも、食事摂取量に変動はなく、万遍なくお食事を召し上がられるようになり、体力も回復されて行きます。昼間に静養して頂く事が当たり前の状態でしたが、ご本人から、「休まないよ。だって元気だもん。」とお言葉が聞かれるようになり、今では殆ど静養されることなく生活をされています。

ご本人の状態が回復されている最中であった4月に長女さんが体調を崩され入院。心配されましたが無事に退院され、5月に誕生日を一緒にお祝いでき、数日後には長女さんがアートギャラリーで展示会（染物展）を開催することとなり、「母にみせてあげたい」という強いご希望を叶えることができました。作品展でお待ちになっていた長女さんは目に涙を浮かべ、「ここまで元気になって…。母を連れてきて下さり本当に有難うございます。」と感謝のお言葉を沢山頂戴することが出来ました。

今回の症例はご本人、ご家族ともに体調が戻られ、多職種と共にOurteamの取り組みとして、心温まる大きな成果を上げることができました。この功績はキラキラ介護賞に値すると考え、推薦させていただきます。

【Ourteam連携】

ご家族（長女さん）・往診医・訪問歯科・看護師・管理栄養士・作業療法士・介護士